



水橋物語



令和8(2026)年4月に水橋地区の7つの小中学校が統合して、「水橋学園」が開学しました。これを記念し、北前船や北陸街道、白岩川、富山湾を介し、多くの人やモノが行き交った水橋地区の歴史や文化を広く皆様にご紹介いただくため、連携企画展「水橋物語」を開催します。

- 売薬資料館 「水橋の売薬業」 6/18(木)～11/23(月・祝)
- 民俗資料館 「水橋と北前船」 7/25(土)～11/30(月)
- 考古資料館 「水橋の遺跡 3000年ものごとり」
8/8(土)～令和9年 1/31(日)
- 陶芸館 「やきものと水運」 9/27(日)～令和9年 2/23(火・祝)
- 篁牛人記念美術館 牛人と盤若「呉羽山の二画人」
10/3(土)～令和9年 2/18(木)

● ワークショップ(悠久の森 2026) 売薬さんの紙風船をつくろう!

場 所: 管理センター講座室
日 時: 8/29(土)・30(日)
午前10時～11時半
入館料: 無料、申込不要

● 5人の学芸員によるリレー解説会

日 時: 10/12(月・祝) 午後1時半～3時半頃
受 付: 民俗資料館前(午後1時集合)
入館料: 420円(全館共通)、申込不要

● いろいろを囲むおはなし

場 所: 民芸合掌館
日 時: 10/17(土) 午後2時半～3時
内 容: 水橋にかかわるおはなし
入館料: 無料、申込不要

民俗民芸村の各施設で水橋地区に関わる展示やイベントを行います!詳しくはHPでご確認ください!



■ 観覧料金

7館全館共通/大人530円、1館/大人100円 高校生以下無料

■ 交通案内

車 / 富山駅から約10分 富山IC・富山西ICから約20分
駐車場無料

バス / 富山地方鉄道バス 富山駅前⑦のりばから「新桜谷町」行乗車
「安養坊」または「富山市民俗民芸村」(東側駐車場そば)
下車徒歩5分

富山市民俗民芸村

管理センター 富山市民俗民芸村1118-1 TEL 076-433-8270
<https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/>



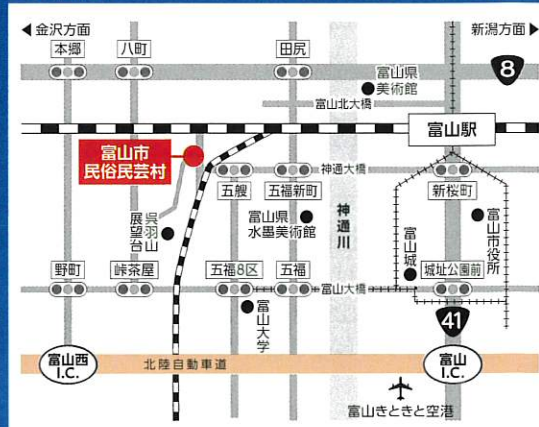
民俗民芸村HP



公式X

● 案内図

考古資料館キャラクター ハッチー、カガミィ



売薬資料館 「水橋の売薬業」

江戸時代に加賀藩領であった水橋では、売薬業が盛んに行われてきました。明治時代以降も引き継がれ、現代の水橋地区を語る上でも、売薬業は重要な産業のひとつであるといえます。

国重要有形民俗文化財の指定を受けている「富山の売薬用具」には、水橋地区の方々からご寄附いただいた資料も含まれています。このほかにも水橋に関連する多くの資料が、当館に収蔵されています。その中から水橋の売薬さんが使った製薬・行商用具・みやげ品、水橋の会社で製薬された薬品など、水橋の売薬業を辿ることができる資料の数々を一堂にご紹介します。



預袋（得意先に預けていく薬を入れておく袋）
（富山市売薬資料館所蔵）

6月
18日
11月
23日

展示解説会
7/4(土)・8/2(日)
午後1時半～

民俗資料館 「水橋と北前船」

平安時代に編纂された法典『延喜式』に、駅伝制における越中国内の駅家の1つとして「水橋」の名前が登場します。また、水橋地区はその立地条件などから船舶の往来が多く、北前船などの寄港地の一つともされていました。江戸時代には加賀藩より、東岩瀬や滑川、魚津等を含む「河東七浦」の一つに指定されたことから、陸だけでなく、海の要衝としても重宝されていたことがわかります。

本展では、旧水橋郷土資料館所蔵の資料を中心に、北前船関係資料や船上で使用されていた民具、信仰などについてご紹介します。



舟金庫
（富山市民俗資料館所蔵）

7月
25日
11月
30日

展示解説会
9/12(土)
午後1時半～

考古資料館 「水橋の遺跡 3000年ものがたり」

水橋地区には、古墳や城跡、集落跡などの遺跡が約50か所あります。南北を流れる白岩川や立山連峰からの豊富な地下水の恩恵を受けて、早くから人々が生活を営んできました。これまで、水田のほ場整備や道路建設、宅地造成などに先立ち、多くの発掘調査が実施されてきました。

水橋3000年の歴史を近年の発掘調査成果を元に「水橋のあけぼの」、「白岩川流域の古墳群と玉作り」、「古代の役所、水橋駅家と古代道路」、「中世城館から川魚漁を営む近世集落へ」と4部構成で紹介いたします。縄文土器や謎の絵画土器、ヒスイ製品、墨書土器、陶磁器、様々な木製品など各時代の人々が生活で用いた「もの」から先人の暮らしを探ります。



双六盤
水橋金瓜・中馬場遺跡出土
（富山市埋蔵文化財センター所蔵）

8月
8日
1月 R9年
31日

展示解説会
9/5(土)
午後1時半～3時
会場 管理センター講座室
（午後2時半頃～考古資料館）

陶芸館 「やきものと水運」

かつて、やきものの多くは船で運ばれました。現代の陶磁器の装飾や焼成技術の源流を辿ると、中国～東南アジア・西アジアに至る海路や、朝鮮半島や国内他地域の海や河川を介してもたらされた影響がうかがえます。本展では、青磁や白磁、染付などの製品を通して、水運による陶磁器文化の伝播をご紹介します。

また、白岩川を運ばれ、水橋地区を中継地として流通したと考えられる越中瀬戸焼についてもご紹介します。



青磁蓮弁文鉢
中国 元～明時代
（富山市佐藤記念美術館所蔵）



中国陶磁片
南宋～明時代
水橋金瓜・中馬場遺跡出土
（富山市埋蔵文化財センター所蔵）

9月
27日
2月 R9年
23日

展示解説会
11/21(土)
午後1時半～

篁牛人記念美術館 牛人と盤若 「呉羽山の二画人」

篁牛人と盤若一郎は、呉羽山に構えたアトリエで共に無所属のまま制作をつづけ、孤高の画家と称されました。「大蛇石」(右写真)は友人宅を訪れた二人が大喧嘩となり、家人に迷惑をかけたお詫びに牛人が常願寺川で拾って贈ったものです。立山から水橋までの急流を転がるうちにぶつかって、角が取れた丸石を仲直りのしるしとしたのでしょうか。二人のほろ苦い思い出を語る石です。

大蛇石（篁牛人記念美術館所蔵）
※ 縄は後に友人が付けたものです。



10月
3日
2月 R9年
18日

展示解説会
11/28(土)
午後1時半～